

FXクラウドシリーズ

販売管理機能への取引データ読込(Excel)機能

マニュアル

第3版

(最終更新日: 令和6年12月10日)



目 次

I	機能概要	1
1.	機能概要	1
2.	読込処理の概要	1
II	取引データ読込までの流れ	3
1.	事前準備	3
2.	日常業務	6
III	操作説明	7
1.	Excel フォーマットの登録	7
2.	列情報の設定	8
3.	読込テンプレートの設計	11
4.	計算式の設定	15
5.	文字列の編集値の設定	17
6.	条件式の設定	19
7.	明細部の設定	23
8.	取引データの読込	27
9.	計上された取引データの確認	29
IV	利用上のご注意	30
1.	データ容量	30
2.	読込可能な Excel ファイルのサイズ	30
3.	「日付」項目の扱い	30
4.	取引の計上単位	30
5.	読込対象データの格納先	30
6.	請求書差し替えの可能性がある取引データの読込	30
V	インポートする「取引データ」のレイアウト	31
1.	システム標準レイアウト	31
2.	「売上データ」のデータ項目の詳細	34
VI	エラーメッセージ	51
1.	レイアウト変換時のエラーメッセージ	51
2.	「論理チェック」に該当した際のエラーメッセージ	51
VII	取引データの読込に関する Q & A	58
1.	ファイル形式	58
2.	「取引データ」の読み込み	58
3.	「取引データ」の各データ項目	58
4.	テスト	58
5.	運用・操作	58

I 機能概要

1. 機能概要

Excelで管理している売上データをF Xクラウドシリーズの販売管理機能でかんたんに読み込めるようにします。これにより、財務会計機能へ仕訳連動して変動損益計算書、得意先順位月報などの業績管理機能に活かすことができます。

(1) 自社で作成しているファイルの読込を省力化するため、次の機能を利用できます。

- ①データ項目ごとに読込対象とするセル又は列を割り当てられます。読み込むためにファイルの列を並び替える必要はありません。
- ②ファイルに不足する情報については、固定の値をセットしたり、ファイルにセットされた値に応じて動的にセットする値を変えたりできます。
- ③条件に合致した明細行を読み飛ばす設定が可能です。

(2) 当機能の監査証跡として読込元のファイルを保存するとともに、読み込んだユーザの情報も伝票に記録します。

2. 読込処理の概要

(1) 次頁の図のとおり、自社オリジナルのExcelファイルを、システムで登録した「Excelフォーマット情報」(システム標準レイアウトのデータ項目とExcelファイルとの対応表)に基づき、システム標準レイアウトに変換したうえで読み込みます。事前に一度「Excelフォーマット情報」を登録しておくことにより、Excelファイルを加工することなく、毎回の読込が可能となります。システム標準レイアウトにつきましては、下記Vをご参照ください。

(2) なお、「取引データ」については、F Xクラウドシリーズへの読込時にその内容を補正できません。そのため、あらかじめF Xクラウドシリーズのマスター設定(消費税情報、部門別管理等)に従って作成されている必要があります。

(3) 作成した「取引データ」のファイルは、F Xクラウドシリーズでの読込時、任意のフォルダに格納されているものとし、そのファイル名を指定することにより読込を開始します。

(4) F Xクラウドシリーズでの読込時のチェックにより、「取引データ」とF Xクラウドシリーズのマスターで不整合が発生した場合は、画面上にその旨のメッセージを表示し、「取引データ」の全明細の読み込みを中止します。この場合には、メッセージに従って「取引データ」の内容を見直す必要があります。

<オリジナルの Excel ファイル>

2023/11/1~2023/11/30

[illegible]

变换

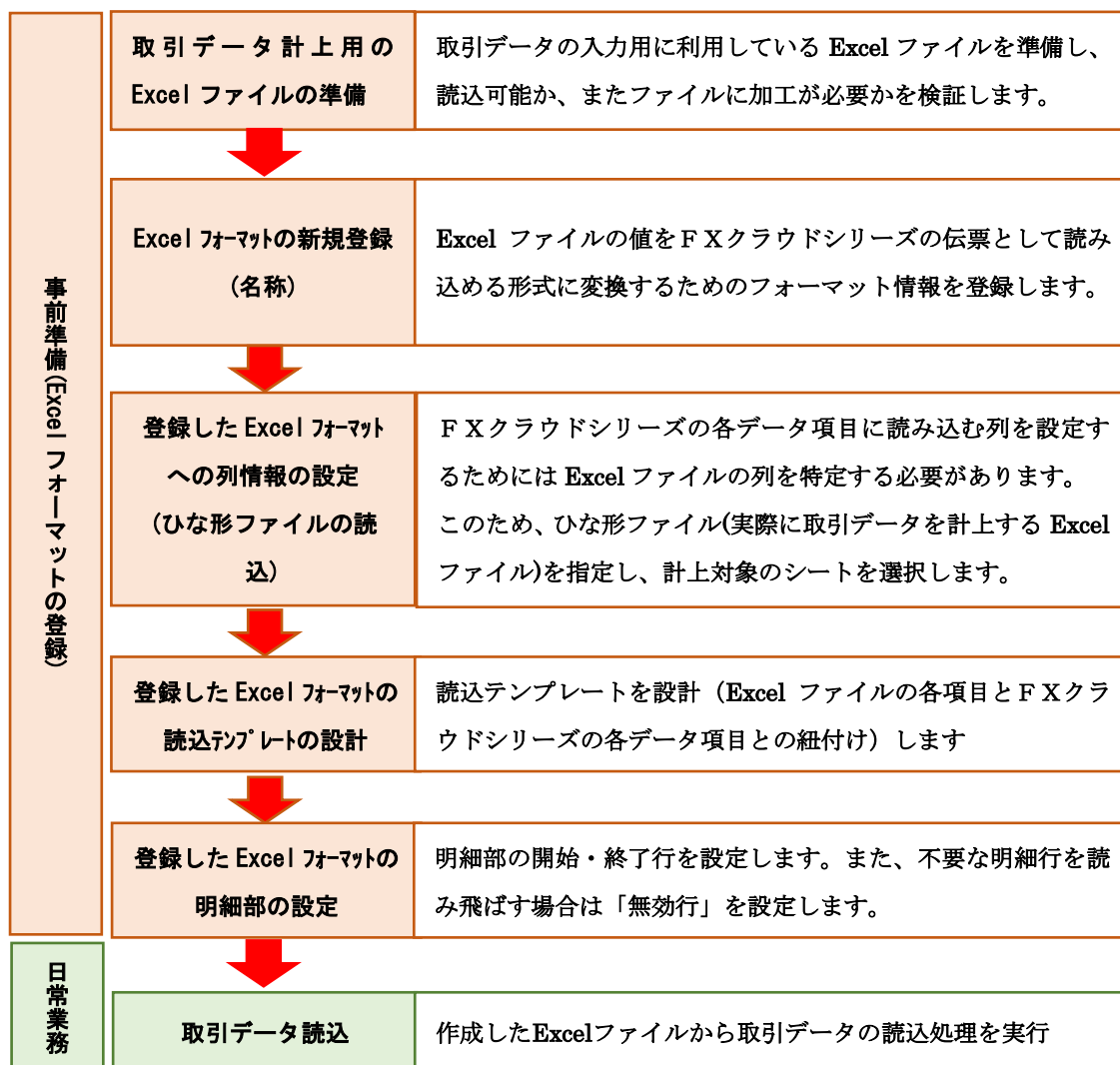
システム標準レイアウト のデータ項目	対応する Excel ファイルの値	
1 伝票区切	条件式	
2 掛/現金	固定値	12
3 取引年月日	列の値	列A
4 伝票番号	省略	
5 取引先コード	列の値	列B
6 消費税転嫁方式	固定値	3
7 国内/輸出	固定値	1
8 先方担当者名	省略	
9 先方担当者敬称	省略	
10 担当者社員番号	列の値	列J
11 部門コード	省略	
12 商品コード	列の値	列D
13 商品名	列の値	列E
14 数量	列の値	列F

讀
込

伝票区切	掛/現金	取引年月日	伝票番号	取引先コード	消費税転嫁方式	国内/輸出	先方担当者名	先方担当者敬称	担当者社員番号	部門コード	商品コード	商品名	数量
1	12	2023/11/5		100101	3	1			3	002	63	オフィスチェア 肘跳ね上げ式	5
	12	2023/11/5		100101	3	1			3	002	190	組立式OAデスク 片抽机	5
	12	2023/11/5		100101	3	1			3	002	2100001	両面スチールホワイトボード	1
	12	2023/11/5		100101	3	1			3	002	102094109	ホワイトボードマーカー	5
1	12	2023/11/6		991	3	1			1	001	902035	ラウンドソファ内向きタイプ	30
1	12	2023/11/10		100202	3	1			2	001	19207	アクリルパーティション	
	12	2023/11/10		100202	3	1			2	001	19210	アクリルクリーナー	

Ⅱ 取引データ読込までの流れ

読込までの流れは次のとおりです。



1. 事前準備

取引データ読込機能の利用にあたり、事前に必要な事項等は次のとおりです。

(1) 取引データ計上用のExcelファイルの準備

取引データ計上に利用しているExcelファイルを準備します。

なお、利用可能なExcelファイルの主な制限として、以下の事項にご注意ください。

① 1シートで完結すること

シート単位で仕訳計上します。複数のシートにまたがる仕訳の計上はできません。なお、他のシートの参照結果をベースにした仕訳計上は可能です。

②「Excelの1行」が「売上传票の商品明細の1行」に対応すること

Excelの行単位で、商品明細の行を作成します。Excelの複数行から1行の明細を作成することや、1行のExcelから複数行の明細を作成することはできません。

③原則として「明細部の行」がシート内で連続していること

伝票の計上対象となる行が、シート内でまとまっている必要があります。(計上対象の行が複数箇所に点在するようなシートには対応できません。) ただし、「無効行設定」(条件に合致した行を読み飛ばすための設定)により、計上対象の一部の行を読み飛ばすことは可能です。

④日付はシリアル値(「セルの書式設定」で「日付」を選択した際に正しく表示される値)で
セットされていること

Excel上での日付の値で読み込みます。

⑤税率や金額は、Excel上の値で読み込む前提であること

例えば、税率について、表示上は10%の場合、Excel上の値は0.1となっている可能性があります。10%の税率については、10という値を指定する必要があります。

⑥売上傳票として必要な項目が1シート内に存在すること

読込対象とするシート上のデータに基づき、売上傳票を計上します。このため、原則として、すべての項目(35項目)がシート上に存在する必要があります。

ただし、省略可能な項目、省略した場合に商品マスターや得意先マスターの設定値がみなしでセットされる項目があります。また、Excelファイルの値とは関係なく特定の値をセットする「固定値」の機能や、あるセルの値に応じてセットする値を変えられる「条件式」の機能もあるため、必ずしもすべての項目がシート上に存在しなくても読み込める可能性があります。

一方で、得意先マスターや商品マスターの設定に従い、みなしで値がセットされる項目の中に、マスターの設定値をそのまま使用せず、明細ごとに値を変えたいというものがある場合は、上記とは逆に、シートに列を追加する必要があります。

シートの加工が必要か否かは個々のデータの状況により異なるため、一概には言えません。下記「V インポートする「取引データ」のレイアウト」で項目ごとに例示していますので、事前に確認のうえ、シート上に存在する項目のみですべて賄えるか、シートに項目を追加する必要があるか検証してください。



注意 シートに項目の追加が必要な場合は、必ず下記(2)以降の設定を開始する前に追加してください。

①下記(2)以降の設計工程では、最初に、日々取引データを読み込むExcelファイルを「ひな形ファイル」として読み込むことにより、開始列、終了列を決定したうえで設計を開始します。設計は、売上データの各データ項目に対して各列を割り当てる作業が主となります。

1)「ひな形ファイル」を読込

列A：売上日	列B：得意先名	列C：商品コード	列D：数量

2)上記1)に基づき、設計画面で売上データの各データ項目へ各列を割り当て

データ項目	割り当てる列
売上日	列A
取引先コード	
商品コード	列C
数量	列D

②ところが、設計を行う中で、後からシートへの項目追加が必要なことが判明した場合、シートに項目を追加し、再度「ひな形ファイル」を読み込む必要が生じます。

上記①の例で読込元のシートに取引先コードが存在しないため、シートの列Bに追加したと仮定します。

1) 「ひな形ファイル」を再読込

列A：売上日	列B：取引先コード	列C：得意先名	列D：商品コード	列E：数量

2) すると、列B以降の列が一つずつずれるため、上記①で設計した内容をすべて見直す必要が生じてしまいます。

データ項目	割り当てる列
売上日	列A
取引先コード	列B
商品コード	列C→列D
数量	列D→列E

③このような作業の手戻りを防止するため、下記(2)以降を開始する前に、「V インポートする「取引データ」のレイアウト」を参照のうえ、シートへの項目追加要否を確認ください。

④ただし、どうしても、後からシートへの項目追加の必要性が判明する場合があります。この場合、既存の列の間に列を挿入するのではなく、表の末尾に列を追加することをご検討ください。これにより、作業の手戻りを最小限に抑えることができます。

1) 「ひな形ファイル」を再読込（列Eに取引先コードを追加）

列A：売上日	列B：得意先名	列C：商品コード	列D：数量	列E：取引先コード

2) この場合、それまでの設計は変更せずに、列Eを割り当てる操作のみで対応可能です。

データ項目	割り当てる列
売上日	列A
取引先コード	列E
商品コード	列C
数量	列D

(2) Excelフォーマットの登録

Excelファイルの値をF Xクラウドシリーズの伝票として読み込める形式に変換するためのフォーマット情報を登録します。なお、お使いのExcelファイルの種類に応じて、フォーマット情報は複数登録できます。

フォーマット情報の登録は、「設定(販売・購買)」>「基本情報」>「取引データ(Excel)読込設定」メニューで行います。

(3) 列情報の登録

F Xクラウドシリーズの各データ項目に読み込む列を設定するために、Excelファイルの列を特定する必要があります。実際に取引データを計上するExcelファイル（ひな形ファイル）を読み込むことにより、開始列、終了列、及び列のタイトルの情報を登録します。

(4) 読込テンプレートの設計

売上データの各データ項目に対して、Excelファイルのセルや列を割り当てます。これにより、日々Excelファイルを読み込む際に、自動的に売上データの形式に変換されるようになります。なお、Excelファイルに存在しない固定値や、条件に応じた値、Excelファイルの文字列を編集した値をセットすることも可能です。

(5) 明細部の設定

Excelファイルの明細部（商品明細）に関する設定を行います。具体的には次の2点です。

- ①明細部の開始行、終了行を設定します。ここで設定した開始行から順にExcelファイルの読込が行われます。
- ②明細部に読込不要な行が混在している場合、読み飛ばすことが可能です。この場合は、読み飛ばすための条件を「無効行」として設定します。

2. 日常業務

(1) 取引データの読込

作成したExcelファイルから取引データを読み込みます。読込は「販売管理」>「売上」>「売上データ (Excel) の読込」メニューで行います。

今回読み込むExcelのブック（ファイル）とシートを、また事前に作成したExcelフォーマットの中から今回適用するものを選択し、読み込みます。

(2) 計上された取引データの確認

計上された売上傳票を問い合わせると、画面上部左に計上元情報として「売上データ (Excel)」と表示されます。また、画面上部の「Excel出力」ボタンから読み込んだExcelファイルをダウンロードできます。

Ⅲ 操作説明

1. Excelフォーマットの登録

Excelファイルの値をF Xクラウドシリーズの伝票として読み込める形式に変換するためのフォーマット情報を登録します。なお、お使いのExcelファイルの種類に応じて、フォーマット情報は複数登録できます。

- (1) 「設定(販売・購買)」>「基本情報」>「取引データ(Excel)読込設定」メニューを選択します。最初に登録済みのExcelフォーマット一覧画面が表示されます。[登録]ボタンをクリックします。

ホーム > 取引データ(Excel)読込設定 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

登録

Excelフォーマット					
001	受注管理表	名称変更	列情報の設定	読込テンプレートの設計	削除

- (2) Excelフォーマットのコード、名称を入力し [OK] ボタンをクリックします。

ホーム > 取引データ(Excel)読込設定 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

コード 002

名称 受注管理表 (一覧)

OK キャンセル

2. 列情報の設定

F Xクラウドシリーズの各データ項目に読み込む列を設定するためにはExcelファイルの列を特定する必要があります。このための列情報を設定します。

(1) Excelフォーマットの登録後、一覧画面で[列情報の設定]ボタンをクリックします。

ホーム > 取引データ(Excel)読み込み設定 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

Excelフォーマット					
001	受注管理表	名称変更	列情報の設定	読み込みテンプレートの設計	削除
002	受注管理表 (一覧)	名称変更	列情報の設定	読み込みテンプレートの設計	削除

(2) [ひな形ファイル読み込み]ボタンをクリックします。

ホーム > 取引データ(Excel)読み込み設定 > 列情報の登録 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

(002) 受注管理表 (一覧) ひな形ファイル読み込み

各データ項目に読み込む列を設定するためにExcelファイルの列を特定する必要があります。[ひな形ファイル読み込み]ボタンをクリックし、取引を計上するExcelファイルを読み込んでください

列名	列タイトル
----	-------

(3) 「ひな形ファイル読み込み」画面が表示されたら、[ファイル選択]ボタンをクリックし、実際に取引計上に使用するひな形ファイルを選択します。

ホーム > 取引データ(Excel)読込設定 > 列情報の登録 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

(001) 受注管理表

① ひな形ファイルを指定し、取引データを計上するシートを選択してください。また、タイトル行を指定すると、各データ項目に読込む列を選択する際に列タイトルが参考表示されます

ひな形ファイル **ファイル選択** ファイルを選択してください

シート名

タイトル行 行目

OK キャンセル

- (4) ファイル選択後、読み込んだファイルに存在するシート名が「シート名」欄に表示されます。取引計上を使用するシートを選択します。また、タイトル行には、ひな形ファイルで、明細部のタイトルが表示されている行を入力します。後ほど読込テンプレートの設計を行う際に、データ項目に列を割り当てる場合、列名と併せてタイトルが表示されるようになります。入力後[OK]ボタンをクリックします。

ホーム > 取引データ(Excel)読込設定 > 列情報の登録 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

(002) 受注管理表 (一覧)

① ひな形ファイルを指定し、取引データを計上するシートを選択してください。また、タイトル行を指定すると、各データ項目に読込む列を選択する際に列タイトルが参考表示されます

ひな形ファイル **ファイル選択** 受注管理表 (一覧) .xlsx

シート名

タイトル行 行目

OK キャンセル

- (5) 一覧画面に戻ると、列名、列タイトルが表示されています。列の開始、終了及び列タイトルが正しく表示されていることを確認します。

(002) 受注管理表 (一覧)

ひな形ファイル読込み ?

列名	列タイトル	
列A	年月日	
列B	伝票番号	
列C	伝票種類	
列D	掛/現金	
列E	取引先コード	
列F	得意先名	
列G	営業所名	
列H	伝票摘要	
列I	合計金額	
列J	発行方法(納品書)	
列K	発行方法(領収書)	
列L	入力日	
列M	入力番号	
列N	入力者	
列O	自動仕訳番号	

3. 読込テンプレートの設計

売上データの各データ項目に対して、Excelファイルのセルや列を割り当てます。これにより、日々Excelファイルを読み込む際に、自動的に売上データの形式に変換されるようになります。なお、Excelファイルに存在しない固定値や、条件に応じた値、Excelファイルの文字列を編集した値をセットすることも可能です。

(1) Excelフォーマットの一覧画面で[読込テンプレートの設計]ボタンをクリックします。



(2) データ項目の一覧画面が表示されます。「項目」列には、取引データのデータ項目が表示されます。「セットする値」欄で、各データ項目にセットするデータの種類の、また「設定値」欄で具体的に設定する値を入力します。画面右上の[修正]ボタンをクリックします。



(3) 「セットする値」欄でセットするデータの種類の選択します。

行	項目	項目の説明
1	省略	値をセットせずに省略します。ただし、必須項目の場合は読込の際にエラーとなるため、必ずセットしてください。
2	列の値	Excelの列の値をセットします。例えば、明細が20行あるファ

		イルを読み込む場合、特定の列（例：「列D」）を指定しておく と、自動的に列Dの値が20行分読み込まれます。通常は項目 種類が「明細部」のデータ項目に対して使用します。
3	セルの値	Excelの特定のセルの値をセットします。通常は項目種類が 「鑑部」又は「合計部」のデータ項目に対して使用します。「明 細部」の項目に対して使用した場合、すべての明細に、同じ値 （指定したセルの値）がセットされます。
4	固定値	Excelファイルの値に関係なく固定値をセットします。例え ば、Excelファイルには「掛売上」の売上データのみが存在す る場合、「掛/現金」のデータ項目には固定で「12」（掛売上）を セットするという使い方が可能です。
5	条件に応じた値	Excelファイルの値に応じて異なる値をセットできます。例え ば、「請求時転嫁方式」が「3」（外税/請求時）だったら伝票消費 税計を「0」にし、それ以外の場合は値をセットするという使い 方が可能です。詳細については下記「6．条件式の設定」をご 参照ください。
6	計算した値	Excelファイルの数値をそのままセットせず、計算した結果を セットできます。例えば、伝票の合計金額から消費税額を求 めて、その結果をセットするという使い方が可能です。詳細 については下記「4．計算式の設定」をご参照ください。
7	文字列の編集値	Excelファイルの値をそのままセットせず、文字列の一部のみ をセットしたり、他の文字列と結合した文字列をセットした りできます。例えば、「商品名」は最大で全角40文字の入力が 可能ですが、実際の商品名が40文字を超える場合に、先頭か ら40文字分をセットするという使い方が可能です。詳細につ いては下記「5．文字列の編集値の設定」をご参照ください。

- (4) 「省略」「列の値」「セルの値」「固定値」については、当画面上で設定値まで入力でき
ます。「計算した値」「文字列の編集値」を選択した場合は、[編集] ボタンをクリックし、
別画面で詳細を設定します（それぞれ下記4． 5． ご参照）。また、「条件に応じた値」
を選択した場合は、一旦 [OK] ボタンをクリックして内容を更新後、 [確認] ボタンを
クリックして別画面で詳細を設定します（下記6． ご参照）。

ホーム > 取引先(Excel)読込設定 > 読込テンプレートの設計 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

(002) 受注管理表 (一覧) ?

項目	セットする値	設定値
取引区分	省略	
課否区分	条件に応じた値	未設定
商品コード	省略	
商品名	省略	
商品規格	省略	
商品単位	省略	
入数	省略	
ケース数	省略	
パツ数	省略	
数量	省略	
売上単価	省略	
金額	省略	
仕入単価	省略	
税率	省略	
軽減税率区分	省略	
事業区分	省略	
行摘要	文字列の編集値	編集
伝票消費税計	省略	

OK キャンセル

① 「列の値」を選択した場合、「設定値」欄で該当する列を選択します。

ホーム > 取引先(Excel)読込設定 > 読込テンプレートの設計 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

(002) 受注管理表 (一覧) ?

項目	セットする値	設定値
伝票区切	省略	
掛/現金	省略	
売上日	列の値	列A 年月日
伝票番号	省略	
取引先コード	省略	列A 年月日
消費税転嫁方式	省略	
国内/輸出	省略	列B 伝票番号
先方担当者名	省略	列C 伝票種類
先方担当者敬称	省略	列D 掛/現金
担当者社員番号	省略	列E 取引先コード
部門コード	省略	列F 得意先名
請求日区分	省略	
請求日	省略	
回収予定日区分	省略	
回収予定日	省略	
伝票摘要	省略	
取引区分	省略	
課否区分	条件に応じた値	未設定

OK キャンセル

② 「セルの値」を選択した場合、「設定値」欄で該当するセルの値を入力します。



注意

「セルの値」は「A1形式」で入力してください。

「セルの値」の入力は「A1形式」にのみ対応しています。例えばF列の5行目であれば「F5」と入力してください。「R1C1形式」には対応していません。

4. 計算式の設定

Excelファイルの数値をそのままセットせず、計算した結果をセットできます。例えば、伝票の合計金額から消費税額を求めて、その結果をセットするという使い方が可能です。

- (1) 「読込テンプレートの設計」画面で「計算した値」を選択した行の[編集]ボタンをクリックすると「計算式の編集」画面が開きます。

ホーム > 取引データ(Excel)読込設定 > 読込テンプレートの設計 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

(002) 受注管理表 (一覧)

項目	セットする値	設定値
取引区分	省略	
課否区分	条件に応じた値	未設定
商品コード	省略	
商品名	省略	
商品規格	省略	
商品単位	省略	
入数	省略	
ケース数	省略	
バラ数	省略	
数量	省略	
売上単価	省略	
金額	省略	
仕入単価	省略	
税率	省略	
軽減税率区分	省略	
事業区分	省略	
行摘要	文字列の編集値	
伝票消費税計	省略	

編集

OK キャンセル

- (2) 読込元のExcelファイルの列の値を計算式に使用する場合は、「列の値」を選択のうえ、列を選択します。また特定のセルの値を使用する場合は「セルの値」を選択のうえ、「A1形式」で入力します。いずれの場合も [▼] ボタンで計算式に追加します。

文字列の編集

読込元
ファイルの値

☒ 列の値 列A 年月日 固定値

☐ セルの値

☐ 部分文字列
(文字目から 文字分)

▼

セットする値

最終項削除
すべて削除

OK キャンセル



「セルの値」は「A1形式」で入力してください。

「セルの値」の入力は「A1形式」にのみ対応しています。例えばF列の5行目であれば「F5」と入力してください。「R1C1形式」には対応していません。



値の入力後、必ず[▼]ボタンで「計算式」に追加してください。

「セルの値」「列の値」で選択した値は[▼]ボタンで「計算式」欄に追加することにより初めて有効となります。忘れずにボタンをクリックしてください。これは「定数」を入力した場合も同様です。

- (3) 画面右側では「定数」を指定できます。特定の数値を計算式に使用したい場合はここで入力し[▼]ボタンで計算式に追加します。

文字列の編集

読込元
ファイルの値

☒ 列の値 列A 年月日

☐ セルの値

☐ 部分文字列

(文字目から 文字分)

▼

固定値

▼

セットする値

最終項削除

すべて削除

OK キャンセル

- (4) また、画面右の[+][−][×][÷]ボタンでそれぞれの項目を繋ぐことにより計算式を完成させます。
- (5) もし誤った項を追加した場合は[最終項削除] ボタンをクリックします。最後に追加した項のみが削除されます。すべてを削除する場合は[すべて削除] ボタンをクリックします。
- (6) 計算式を作成後、[OK] ボタンをクリックします。

5. 文字列の編集値の設定

Excelファイルの値をそのままセットせず、文字列の一部のみをセットしたり、他の文字列と結合した文字列をセットしたりできます。

- (1) 「読込テンプレートの設計」画面で「文字列の編集値」を選択した行の[編集]ボタンをクリックすると「文字列の編集」画面が開きます。

ホーム > 取引データ(Excel)読込設定 > 読込テンプレートの設計 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

(002) 受注管理表 (一覧)

項目	セットする値	設定値
取引区分	省略	
課否区分	条件に応じた値	未設定
商品コード	省略	
商品名	省略	
商品規格	省略	
商品単位	省略	
入数	省略	
ケース数	省略	
バラ数	省略	
数量	省略	
売上単価	省略	
金額	省略	
仕入単価	省略	
税率	省略	
軽減税率区分	省略	
事業区分	省略	
行摘要	文字列の編集値	
伝票消費税計	省略	

編集

OK キャンセル

- (2) 読込元のExcelファイルの列の値を文字列に使用する場合は、「列の値」を選択のうえ、列を選択します。また特定のセルの値を使用する場合は「セルの値」を選択のうえ、「A1形式」で入力します。いずれの場合も [▼] ボタンで計算式に追加します。

文字列の編集

読込元
ファイルの値

☒ 列の値 列A 固定値

☐ セルの値

☐ 部分文字列
(文字目から 文字分)

▼

セットする値

最終項削除
すべて削除

OK キャンセル



「セルの値」は「A1形式」で入力してください。

「セルの値」の入力は「A1形式」にのみ対応しています。例えばF列の5行目であれば「F5」と入力してください。「R1C1形式」には対応していません。



値の入力後、必ず[▼]ボタンで「セットする値」に追加してください。

「セルの値」「列の値」で選択した値は[▼]ボタンで「セットする値」欄に追加することにより初めて有効となります。忘れずにボタンをクリックしてください。これは「固定値」を入力した場合も同様です。



文字列の一部分のみをセットしたい場合

「列の値」「セルの値」で取得した文字列の一部のみ使用したい場合は、「部分文字列」にチェックを付け、開始位置と取得文字数を入力します。例えば、商品名は最大40文字が有効ですが、取得する文字列がそれ以上の長さの場合に、「先頭から40文字分をセットする」という使い方が可能です。

- (3) 画面右側では「固定値」を指定できます。特定の文字列を繋げたい場合はここで入力し[▼]ボタンで「セットする値」に追加します。

- (4) もし誤った文字列を追加した場合は[最終項削除] ボタンをクリックします。最後に追加した文字列のみが削除されます。すべてを削除する場合は[すべて削除] ボタンをクリックします。
- (5) 文字列を作成後、[OK] ボタンをクリックします。

6. 条件式の設定

読込元のExcelファイルの列の値（セルの値）が××だったら〇〇をセットし、△△△なら■をセットする、というように、読込元ファイルの値に応じてデータ項目にセットする値を変更したい場合に使用します。

- (1) 「読込テンプレートの設計」画面で「条件に応じた値」と設定した行に表示される[確認]ボタンをクリックします。

ホーム > 取引データ(Excel)読込設定 > 読込テンプレートの設計 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

(002) 受注管理表 (一覧) 明細部の設定 修正 ?

項目	セットする値	設定値	
伝票区切	条件に応じた値	未設定	確認
掛/現金	省略		
売上日	省略		
伝票番号	省略		
取引先コード	省略		
消費税転嫁方式	省略		
国内/輸出	省略		
先方担当者名	省略		
先方担当者敬称	省略		
担当者社員番号	省略		
部門コード	省略		
請求日区分	省略		
請求日	省略		
回収予定日区分	省略		
回収予定日	省略		
伝票摘要	省略		
取引区分	省略		
課否区分	省略		
商品コード	省略		

- (2) 「条件式の設定」画面が開きます。最初は「条件に該当しない場合」という行のみが表示されています。[登録]ボタンをクリックし「読込条件」を追加します。

 **「読込条件」の考え方**

当画面を開いた直後は「条件に該当しない場合」という行のみが表示されます。[登録]ボタンで「読込条件」を登録していくと下図のとおり各行に条件が追加されていきます。「読込条件」の考え方は次のとおりです。

ホーム > 取引データ(Excel)読込設定 > 読込テンプレートの設計 > 条件式の設定 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

(002) 受注管理表 (一覧) | 伝票区切 ?

Excelファイルの値に応じて異なる値をセットできます。値をセットするための条件を追加する場合は[登録]ボタンをクリックします

条件 (上の行から順に適用)		条件式1 条件式2 条件式3
伝票区切りを1にセッ	修正 削除	列A 年月日 が 列A 年月日
条件に該当しない場合	修正	

1. 当画面の行が一つの「読込条件」を示します。

各「読込条件」は、「もし××だったら」という「条件式」と、「△△をセットする」という「セットする値」から構成されます。

読込条件：「第1条件」

条件式：
もし××だったら

セットする値：
△△をセットする

2. 「読込条件」は複数登録できます。

Excelファイルの読込に際しては、上の行の「読込条件」から順に「条件式」に合致するか否かが判定されます。合致した場合は、その「読込条件」内の「セットする値」がセットされます。合致しなかった場合は、次の行の「読込条件」の「条件式」に合致するか判定されます。上図の例を図示すると次のとおりです。

「第1条件」の「条件式」に該当するか？	→ はい	「第1条件」の「セットする値」をセット
↓いいえ		
「第2条件」の「条件式」に該当するか？	→ はい	「第2条件」の「セットする値」をセット
↓いいえ		
「条件に該当しない場合」の「セットする値」をセット		

3. 上図の各行左にある[↑↓]アイコンの部分ドラッグアンドドロップすることで、各「読込条件」の順番変更も可能です。順番を変更することにより、上記2. の条件式に合致するか否かの判定順番も変わります。

(3) [登録]ボタンをクリックすると、画面下部に「読込条件」の登録欄が表示されます。次の内容を登録し、読込条件を作成します。

ホーム > 取引データ(Excel)読込設定 > 読込テンプレートの設計 > 条件式の設定 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

(002) 受注管理表 (一覧) | 伝票区切

Excelファイルの値に応じて異なる値をセットできます。値をセットするための条件を追加する場合は[登録]ボタンをクリックします

条件 (上の行から順に適用)	条件式1 条件式2 条件式3
条件に該当しない場合	修正

条件の名称

条件式1 列の値 列A 年月日 が 列の値 列A 年月日 と等しい

条件式2 列の値 列A 年月日 が 列の値 列A 年月日 と等しい

条件式3 列の値 列A 年月日 が 列の値 列A 年月日 と等しい

OK キャンセル

項目	内容
読込条件の名称	読込条件の名称を入力します（例：伝票区切に1をセットする条件）。

条件式 1 ～ 条件式 3	1 つの読込条件は「もし××だったら」という「条件式」と「△△をセットする」という「読み込む値」から構成されます。ここでは「条件式」を登録します。 1 つの読込条件の中で条件式は最大 3 つ組み合わせて使用することが可能です。条件式の詳細は下記①をご参照ください。
条件式の関係	複数の条件式を設定した際に条件式同士の関係を選択します。「すべての条件に合致(AND)」を選択すると「もし××、かつ○○、かつ★★だったら」という条件式を、「いずれかの条件に合致(OR)」を選択すると「もし××、または○○、または★★だったら」という条件式をそれぞれ作成できます。
条件該当時にセットする値	条件式に該当した場合に読み込む値を設定します。 詳細は下記②を参照してください。

①条件式の設定

読込条件のうち「もし××だったら」にあたる条件式を設定します。条件式はさらに「比較元」が「比較先」と比べて「どのような状態か(大きい、等しい、小さい)」と分解されます。つまり「もし比較元＝比較先だったら」という形式です。

「比較元」「比較先」「どのような状態か」を順に設定します。

1) 「比較元」を設定する

「比較元」には「列の値」「セルの値」のいずれかを選択できます。選択に応じた値を設定します。

項目	内容
列の値	読込元の Excel ファイルの列の値を指定する場合は併せて列を選択します。
セルの値	読込元の Excel ファイルの特定のセルの値を指定する場合は、併せてセルの値を「A1 形式」(例：F 列の 5 行目の場合は「F5」)で入力します。「R1C1 形式」には対応していません。

2) 「比較先」を設定する

「比較先」には「列の値」「セルの値」「固定値」「文字列の編集値」のいずれかを選択できます。選択に応じて値を設定します。

項目	内容
列の値	読込元の Excel ファイルの列の値を指定する場合は、併せて列を選択します。
セルの値	読込元の Excel ファイルの特定のセルの値を指定する場合は、併せてセルの値を「A1 形式」(例：F 列の 5 行目の場合は「F5」)で入力します。「R1C1 形式」には対応していません。
固定値	Excel ファイルの値に関係ない固定値を指定する場合はその値を入力します。
文字列の編集値	Excel ファイルの値をそのまま指定せず、文字列の一部のみ、または他の文字列と結合した文字列を指定する場合に選択します。[編集] ボタンで文字列の編集値を指定します。

	詳細は上記 5. を参照してください。
--	---------------------

3) 「どのような状態か」を設定する

「比較元」と「比較先」の大小関係を設定します。

②条件該当時にセットする値

条件式に合致した場合に読み込む値を設定します。

項目	内容
列の値	読込元の Excel ファイルの列の値をセットする場合は、併せて列を選択します。
固定値	Excel ファイルの値に関係ない固定値をセットする場合はその値を入力します。
計算した値	Excel ファイルの数値をそのままセットせず、計算した結果をセットできます。例えば、伝票の合計金額から消費税額を求めて、その結果をセットするという使い方が可能です。計算式の編集は[編集]ボタンで行います。詳細は上記 4. を参照してください。
文字列の編集値	Excel ファイルの値をそのままセットせず、文字列の一部のみをセットしたり、他の文字列と結合した文字列をセットしたりできます。例えば、「商品名」は最大で全角 40 文字の入力が可能ですが、実際の商品名が 40 文字を超える場合に、先頭から 40 文字分をセットするという使い方が可能です。[編集]ボタンで文字列の編集値を指定します。 詳細は上記 5. を参照してください。
省略	値をセットせずに省略します。

(4) 入力完了後[OK]ボタンをクリックします。

7. 明細部の設定

明細部に関する設定として、明細部の開始・終了行を設定します。また、明細部に金額が0円の行や合計行など、読込不要な行を含む場合は、読み飛ばすための条件を「無効行の設定」として設定しておくことにより、売上データ読込時に自動的に読込対象から除外できます。必要に応じて設定します。

- (1) 「読込テンプレートの設計」画面で「明細部の設定」ボタンをクリックします。

項目	セットする値	設定値	確認
伝票区切	条件に応じた値	未設定	● 確認
掛/現金	省略		
売上日	省略		
伝票番号	省略		
取引先コード	省略		
消費税転嫁方式	省略		
国内/輸出	省略		
先方担当者名	省略		
先方担当者敬称	省略		
担当者社員番号	省略		
部門コード	省略		
請求日区分	省略		
請求日	省略		
回収予定日区分	省略		
回収予定日	省略		
伝票摘要	省略		
取引区分	省略		
課否区分	省略		
商品コード	省略		
商品名	省略		

- (2) 「明細部の設定」画面が開きます。最初に「明細部の開始・終了行」を設定します。[修正]ボタンをクリックし、明細部の開始行、終了行をそれぞれ入力し、[OK] ボタンをクリックします。なお、終了行については省略が可能です。

条件	条件式
	条件式1
	条件式2
	条件式3

- (3) 明細部に不要な行を含む場合は読み飛ばすための条件を設定します。「無効行の設定」欄で設定を行います。最初は条件が登録されていません。[登録]ボタンをクリックし「条件」を追加します。

ホーム > 取引データ(Excel)読込設定 > 読込テンプレートの設計 > 明細部の設定 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

(002) 受注管理表 (一覧)

明細部の開始・終了行
無効行の設定

明細部の開始・終了行

Excelファイルの明細部の開始行、終了行をそれぞれ入力します。なお、終了行については入力省略が可能です

修正

明細部の開始行 行目

明細部の終了行 行目

無効行の設定

Excelファイルの明細部に読込不要な行が混在している場合、読まずに無視することが可能です。読み飛ばすための条件を追加する場合は[登録]ボタンをクリックします

登録

条件	条件式1	条件式2	条件式3



「条件」の考え方

当画面を開いた直後は行が表示されていません。[登録]ボタンで読み飛ばすための「条件」を登録していくと下図のとおり各行に条件が追加されていきます。

「条件」の考え方は次のとおりです。

ホーム > 取引データ(Excel)読込設定 > 読込テンプレートの設計 > 条件式の設定 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

(002) 受注管理表 (一覧) | 伝票区切

Excelファイルの値に応じて異なる値をセットできます。値をセットするための条件を追加する場合は[登録]ボタンをクリックします

登録

条件 (上の行から順に適用)		条件式1	条件式2	条件式3
伝票区切りを1にセット	修正 削除	列A 年月日	が	列A 年月日
条件に該当しない場合	修正			

1. 当画面の行が一つの「条件」を示します。

各「条件」は、「もし××だったら」という「条件式」で構成されます。

読み飛ばす条件：「第1条件」

条件式：

もし××だったら

2. 「条件」は複数登録できます。

「条件」は複数登録できます。各「条件」は並列の関係となります。上図の例では「第1条件」又は「第2条件」に合致する場合に読み飛ばすこととなります。

(3) [登録]ボタンをクリックすると、画面下部に「条件」の登録欄が表示されます。次の内容を登録し、「条件」を作成します。

ホーム > 取引データ(Excel)読込設定 > 読込テンプレートの設計 > 明細部の設定 (93633/214) T K C オフィスネット 堤 敬士 システム終了

(002) 受注管理表 (一覧)

明細部の開始・終了行
無効行の設定

無効行の設定

Excelファイルの明細部に読込不要な行が混在している場合、読まずに無視することが可能です。読み飛ばすための条件を追加する場合は[登録]ボタンをクリックします

条件	条件式1 条件式2 条件式3
条件の名称	
条件式1	列の値 列A 年月日 が 列の値 列A 年月日 と等しい
条件式2	列の値 列A 年月日 が 列の値 列A 年月日 と等しい
条件式3	列の値 列A 年月日 が 列の値 列A 年月日 と等しい
条件式の関係	すべての条件に合致(AND) いずれかの条件に合致(OR)

OK キャンセル

項目	内容
条件の名称	条件の名称を入力します（例：金額 0 を読み飛ばす条件）。
条件式 1 ～条件式 3	1 つの条件は「もし××だったら」という「条件式」で構成されます。1 つの条件の中で条件式は最大 3 つ組み合わせて使用することが可能です。条件式の詳細は下記①をご参照ください。
条件式の関係	複数の条件式を設定した際に条件式同士の関係を選択します。「すべての条件に合致(AND)」を選択すると「もし××、かつ○○、かつ★★だったら」という条件式を、「いずれかの条件に合致(OR)」を選択すると「もし××、または○○、または★★だったら」という条件式をそれぞれ作成できます。

①条件式の設定

「もし××だったら」にあたる条件式を設定します。条件式はさらに「比較元」が「比較先」と比べて「どのような状態か(大きいか、等しいか、小さいか)」と分解されます。つまり「もし比較元＝比較先だったら」という形式です。

「比較元」「比較先」「どのような状態か」を順に設定します。

1) 「比較元」を設定する

「比較元」には「列の値」「セルの値」のいずれかを選択できます。選択に応じた値を設定します。

項目	内容
列の値	読込元の Excel ファイルの列の値を指定する場合は併せて列を選択します。
セルの値	読込元の Excel ファイルの特定のセルの値を指定する場合は、併せてセルの値を「A1 形式」（例：F 列の 5 行目の場合は「F5」）で入力します。「R1C1 形式」には対応していません。

2) 「比較先」を設定する

「比較先」には「列の値」「セルの値」「固定値」「文字列の編集値」のいずれかを選択できます。選択に応じて値を設定します。

項目	内容
列の値	読込元の Excel ファイルの列の値を指定する場合は、併せて列を選択します。
セルの値	読込元の Excel ファイルの特定のセルの値を指定する場合は、併せてセルの値を「A1 形式」（例：F 列の 5 行目の場合は「F5」）で入力します。「R1C1 形式」には対応していません。
固定値	Excel ファイルの値に関係ない固定値を指定する場合はその値を入力します。
文字列の編集値	Excel ファイルの値をそのまま指定せず、文字列の一部のみ、または他の文字列と結合した文字列を指定する場合に選択します。[編集] ボタンで文字列の編集値を指定します。 詳細は上記 5. を参照してください。

3) 「どのような状態か」を設定する

「比較元」と「比較先」の大小関係を設定します。

(4) 入力完了後[OK]ボタンをクリックします。

8. 取引データの読込

作成したExcelファイルから取引データを読み込みます。

- (1) 「販売管理」>「売上」>「売上データ (Excel) の読込」メニューを選択します。



- (2) [ファイル選択]ボタンで今回読み込むExcelファイルと読み込むシートを選択します。また、事前に作成したExcelフォーマットの中から、今回適用するものを選択します。[データ確認]ボタンをクリックします。



- (3) 読み込んだファイルが自動的にチェックされ、読み込めない場合はエラーメッセージが表示されます。エラーがある場合は読み込めません。チェック結果欄に表示された文言を参考にExcelファイル又はExcelフォーマットを修正し再度読み込んでください。なお、表示されるエラーメッセージの一覧については、下記VIをご参照ください。

エラー

✖

不整合なデータがあるため読み込めません。エラーとなっているデータを確認してください

チェック結果

行番号8：西暦(YYYY/MM/DD形式)をセットしてください(売上日)

閉じる

(4) チェックの結果、読込が可能な場合は、読込対象となるデータが一覧表示されます。内容を確認し[一括読込]ボタンをクリックすると読み込まれます。

ホーム

>

売上データ(Excel)の読込

>

計上対象伝票一覧

(93633/214)株式会社 T K C 食品

堤 敬士

システム終了

一括読込

1

[一括読込]ボタンで伝票を読み込んでください

50件/頁

年月日	伝票番号	掛/現金	得意先名	伝票摘要	合計金額
2023/11/05		掛売上	株式会社岡野企画		348,274
2023/11/10		掛売上	T K C 物流株式会社		510,264
2023/11/06		掛売上	東京製作所株式会社		181,560

28

9. 計上された取引データの確認

- (1) 計上された売上傳票を問い合わせると、画面上部左に計上元情報として「Excel読込データ」と表示されます。また、画面上部右側の「Excel出力」ボタンから読み込んだExcelファイルをダウンロードできます。

ホーム > 売上傳票の確認 > 売上傳票 (93633/214)株式会社TKC食品 堤 敬士 システム終了

確認終了 Excel出力 納品書発行 領収書発行 前伝票 次伝票 訂正 削除

月次更新未了 Excel読込データ 納品書 未印刷 請求書 未印刷

伝票番号 売上日 2023/11/10 担当 0000001 佐藤 瞳 部門 000 共通部門

得意先 100202 TKC物流株式会社 掛/現金 掛売上 請求種別 締日請求 事業区分 不動産

営業所名 国内/輸出 国内取引 消費税転嫁方式 外税/請求時 インバ 未定

請求先 100202 TKC物流株式会社 請求日 約定通り 2023/11/30 予定日 約定通り 2023/12/31

先方担当者 敬称 様 伝票摘要

商品一覧

行	区分 課否	商品名 コード	規格	単位	入数 ケース数	バラ数 数量	仕入単価 売上単価	粗利益額 金額②	税率	事業区分 行摘要
1	売1 課税	アクリルパーティション 000019207				30	16,909	507,270	10%	不動産
2	売1 課税	アクリルクリーナー 000019210				3	998	2,994	10%	不動産
3										
4										
5										
6										

粗利合計	粗利率	税抜き金額	消費税等①	源泉税等	合計金額
510,264	100.0%	510,264			510,264

R-No. 37/230913 自動仕訳番号 UD000036 入力者 堤 敬士

IV 利用上のご注意

1. データ容量

監査証跡のため、読込元となったExcelファイルを、取引データ読み込み時にTKCインターネットデータセンター（TISC）に保存します。このため、1取引あたりのデータ容量が増加します。増加するデータ容量は、計上元のExcelファイルに依存します。

2. 読込可能なExcelファイルのサイズ

読み込めるExcelファイルのサイズは500kb以下となります。これよりも大きい場合は、読込に不要な情報（読込に不要なシート、画像情報等）を削除してください。

3. 「日付」項目の扱い

売上日や請求日には、表示形式が「日付」のセルを指定します。表示形式が「日付」であれば、西暦・和暦や区切り記号等に関係なく計上できます。表示形式を「文字列」と定義し、「令和 5年 9月30日」等の値を入力したセルは、日付として扱われません。

4. 取引の計上単位

複数のシートから取引データを読み込む場合、読込はシート単位で行ってください。

5. 読込対象データの格納先

例えば、Webブラウザ上でOneDrive上のExcelファイルを開いた場合は、仕訳計上できません。

6. 請求書差し替えの可能性がある取引データの読込

売上伝票の「売上日」に、発行済み請求書の請求締日以前の日付を入力した場合、発行済みの請求書を差し替えるか、次回請求とするかの選択画面が表示されます。

しかしながら、当機能で読み込む売上データに、発行済み請求書の請求締日以前の売上日を含むデータがある場合は、選択画面は表示されません。無条件に「次回請求」として読み込まれます。もし発行済みの請求書を差し替える場合は、読込完了後、「請求書の発行・差し替え・取消」メニューで発行済みの請求書を一旦取り消してください。

V インポートする「取引データ」のレイアウト

1. システム標準レイアウト

➤ 「必須」項目は必ず値をセットしてください。
➤ 「省略値」とは、省略時にセットする値です。
➤ 「省略時更新値」とは、省略した場合にデータとして扱われる値です。
➤ 「未入力」とは、空文字を指します。
➤ 各項目の詳細な説明は下記 2. をご参照ください。

(1) 売上データ

No	項目	項目 種類	型	有効値・桁数	必須	省略値	省略時更新値	備 考
1	伝票区切	鑑	数値	1	○	-	-	伝票の始まりには必ず「1」をセットします。
2	掛/現金	鑑	数値	11:現金売上 12:掛売上		0 or 未入力	取引先マスターの登録値	
3	売上日	鑑	日付	西暦年月日(8桁)	○	-	-	YYYY/MM/DDの形式でセットします。
4	伝票番号	鑑	文字	半角6文字以内		0 or 未入力	自動付番する設定の時は自動付番。それ以外は空文字	「システムで自動付番する(変更不可)」 「ユーザごとに自動付番(変更不可)」の場合は無視され、更新時に自動付番されます。
5	取引先コード	鑑	数値	1~999998	○	-	-	
6	消費税転嫁方式	鑑	数値	1:外税/納品時 2:内税 3:外税/請求時		0 or 未入力	取引先マスターの登録値	
7	国内/輸出	鑑	数値	1:国内取引 2:輸出免税		0 or 未入力	取引先マスターの登録値	
8	先方担当者名	鑑	文字	全角12文字以内 (全半角混在可)		未入力	取引先マスターの登録値	
9	先方担当者敬称	鑑	文字	全角2文字以内 (全半角混在可)		未入力	取引先マスターの登録値	存在しない敬称の場合は無視されます。
10	担当者社員番号	鑑	数値	1~9999999		0 or 未入力	取引先マスターの登録値	
11	部門コード	鑑	文字	半角数字3文字 (000~998)		未入力	空文字	部門管理機能を利用している場合は必須です。それ以外の時は無視されます。
12	請求日区分	鑑	数値	1:約定通り 2:任意入力		0 or 未入力	取引先マスターの「請求種別」が「締日請求」の場合は「1」、「都度請求」の場合は「2」	
13	請求日	鑑	日付	西暦年月日(8桁)		0 or 未入力	取引先マスターの「請求種別」が「都度請求」の場合は「売上日」	YYYY/MM/DDの形式でセットします。 なお、「請求日区分」が「1:約定通り」の場合は無視され、システムで自動計算した日付がセットされます。
14	回収予定日区分	鑑	数値	1:約定通り 2:任意入力		0 or 未入力	1	
15	回収予定日	鑑	日付	西暦年月日(8桁)		-	-	YYYY/MM/DDの形式でセットします。 なお、「回収予定日区分」が「1:約定通り」の場合は無視されます。
16	伝票摘要	鑑	文字	全角40文字以内 (全半角混在可)		未入力	空文字	
17	取引区分	明細	文字	「取引区分名」 全角4文字 (全半角混在可)		未入力	商品マスターの登録値	「販売管理取引区分」メニューの「売上取引」タブに登録されている「取引区分名」をセットします。

18	課否区分	明細	数値	1:課税 2:非課税 3:不課税		0 or 未入力	商品マスター の登録値	
19	商品コード	明細	文字	半角16文字以内	○	-	-	
20	商品名	明細	文字	全角40文字以内 (全半角混在可)		未入力	商品マスター の登録値	
21	商品規格	明細	文字	全角10文字以内 (全半角混在可)		未入力	商品マスター の登録値	
22	商品単位	明細	文字	全角3文字以内 (全半角混在可)		未入力	商品マスター の登録値	
23	入数	明細	数値	0~99999999(※1)		0 or 未入力	0	
24	ケース数	明細	数値	-99999999 ~ 99999999		0 or 未入力	0	
25	バラ数	明細	数値	-99999999 ~ 99999999(※2)		0 or 未入力	0	
26	数量	明細	数値	-99999999 ~ 99999999(※2)		0 or 未入力	「入数」 ×「ケース数」 +「バラ数」	
27	売上単価	明細	数値	-99999999 ~ 999999999(※3)		0 or 未入力	0	
28	金額	明細	数値	-999999999 ~ 999999999		0 or 未入力	「数量」 ×「単価」	
29	仕入単価	明細	数値	-999999999 ~ 999999999(※3)		0 or 未入力	0	
30	税率	明細	数値	税率テーブルに登 録された税率(整 数)		0 or 未入力	空文字	課否区分が「1」(課税)の場合は必須で す。課否区分が「2」(非課税)または「3」 (不課税)の場合は無視されます。
31	軽減税率区分	明細	数値	0: 標準税率 1: 軽減税率		0 or 未入力	0	課否区分が「2」(非課税)または「3」(不 課税)の場合は無視されます。
32	事業区分	明細	数値	1: 卸売り 2: 小売り 3: 製/建 4: その他 5: サービス 6: 不動産		0 or 未入力	次の順番で設 定された事業 区分 ①商品マスタ ーの当該商品 の登録値 ②取引先マスタ ーの当該得 意先の登録値 ③「消費税情 報」メニュー で登録された 自社の主たる 事業区分	売上日が主たる事業区分の適用期間外 (「消費税情報」メニュー)の場合は無視 されます。
33	行摘要	明細	文字	26byte以内 (全半角混在可)		未入力	空文字	
34	伝票消費税計 (消費税転嫁方 式=1の場合は 外税消費税合 計、消費税転嫁 方式=2の場合 は内税消費税合 計と読み替え る)	合計	数値	-999999999 ~ 999999999		0 or 未入力	システムによ る自動計算値	
35	伝票源泉税計	合計	数値	-999999999 ~ 999999999		0 or 未入力	システムによ る自動計算値	

- ※1 : 商品マスター上、当該商品が数量の小数入力をする設定の場合は「0.0000～999999.9999」(小数点以下有効桁数は当該商品の設定によります)
- ※2 : 商品マスター上、当該商品が数量の小数入力をする設定の場合は「-999999.9999～999999.9999」(小数点以下有効桁数は当該商品の設定によります)
- ※3 : 商品マスター上、当該商品が単価の小数入力をする設定の場合は「-9999999.9999～9999999.9999」(小数点以下有効桁数は当該商品の設定によります)

2. 「売上データ」のデータ項目の詳細

- 項目名の右側に“(※)”が付いている項目は必須項目です。
- 「未入力」とは、空文字(「 ” ” 」)を指します。
- 「(1)伝票区切」～「(16)伝票摘要」及び「(34)伝票消費税計」は、同一の売上データ内の最初のデータ行のみが読み込まれます。「条件式」「無効行」の設定により、読み込むデータ行を限定している場合は、条件に合致して（又は合致せずに）読込対象となるデータ行のうち最初のデータ行の値が読み込まれます。
- 項目種類が「鑑部」「合計部」の項目は、1つの売上傳票に対して1つセットする必要があります。仮に商品明細ごとにセットされた場合は、最も上の行にセットされた値が更新されます。
- 項目種類が「明細部」の項目は、商品明細ごとにセットする必要があります。
- 「伝票区切」は、システムが伝票と次の伝票との区切りを判断するために必要となる項目です。伝票の先頭行にのみ「1」をセットしてください。

(1) 伝票区切(※)

項目種類：識別子

TYPE：数値

有効値：1

説明：伝票の始まりの行に「1」をセットします。「1」と入力された行から1つの伝票とみなして読み込みます。

例：1枚目の伝票の商品明細行が3行、2枚目の伝票の商品明細行が2行ある場合

(ファイルの行) 伝票区切・・・・・・

1行目 1,・・・・・・←1枚目の伝票、商品明細の1行目のデータ。

2行目・・・・・・←商品明細の2行目のデータ。

3行目・・・・・・←商品明細の3行目のデータ。

4行目 1,・・・・・・←2枚目の伝票、商品明細の1行目のデータ。

5行目・・・・・・←商品明細の2行目のデータ。



ファイルの加工が必要となるケース、不要なケース

「条件式」を使用することにより、シート上に値をセットしなくても次のとおり対応できる場合があります。

(1) 例えば、次のように複数の伝票がシートに含まれ、1、3、5行目がそれぞれ伝票の開始行という場合です。

行	売上日	得意先	商品	金額	...
1	11/1	得意先 a	A 商品	100, 000	
2			B 商品	200, 000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100, 000	
4			C 商品	300, 000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300, 000	

(2) この場合、伝票の先頭行には「伝票区切」として「1」をセットする必要がありますが、シート上には「1」がありません。通常は、下表のようにシートに列を追加し、「1」をセットします。

行	売上日	得意先	商品	金額	区切
1	11/1	得意先 a	A 商品	100, 000	1
2			B 商品	200, 000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100, 000	1
4			C 商品	300, 000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300, 000	1

(3) しかしながら、この例では、「売上日」が伝票の先頭行にのみ入力されているため、これを利用して、伝票区切をセットすることが可能です。

具体的には、「「売上日」列が空欄でない場合は「伝票区切」に「1」をセットする」という条件式を設定することにより、シートに列を追加することなく対応することが可能です。

(4) ただし、「売上日」が行2、4にも入力されている場合、この方法を利用することはできません。この場合は、シートに列を追加する必要があります。

行	売上日	得意先	商品	金額	区切
1	11/1	得意先 a	A 商品	100, 000	1
2	11/1	得意先 a	B 商品	200, 000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100, 000	1
4	11/2	得意先 b	C 商品	300, 000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300, 000	1

(2) 掛/現金

項目種類：鑑部

TYPE：数値

有効値：「11」（現金売上傳票）、「12」（掛売上傳票）

説明：売上傳票が現金売上、掛売上のいずれに該当するかセットします。

省略時：取引先マスターに登録されている「掛/現金」の値がセットされます。



ファイルの加工が必要となるケース、不要なケース

省略した場合は、マスターの設定値がみなしでセットされますが、明細ごとに値を変えたいという場合は、シートに列を追加する必要があります。

(1) 取引先マスターで「得意先 a」も「得意先 b」も「掛/現金」が「掛売上」と設定されているとします。シート上「掛/現金」に相当する列は存在しません。この場合、このシートを読み込むと、行1、3、5の伝票すべて取引先マスターの設定に従い、「掛売上」として読み込まれます。

行	売上日	得意先	商品	金額	...
---	-----	-----	----	----	-----

1	11/1	得意先 a	A 商品	100, 000	
2			B 商品	200, 000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100, 000	
4			C 商品	300, 000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300, 000	

(2) しかしながら、行5の伝票については「現金売上」だったとします。この場合、取引先マスターからみなしでセットされてしまうと、正しい値とならないため、下表のように列を追加し、掛売上か現金売上かをセットする必要があります。

行	売上日	得意先コード	商品	金額	掛/現金
1	11/1	得意先 a	A 商品	100, 000	掛
2			B 商品	200, 000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100, 000	掛
4			C 商品	300, 000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300, 000	現金

(3) 売上日(※)

項目種類：鑑部

TYPE：日付

有効値：西暦(YYYY/MM/DD形式)。伝票の入力可能期間内の年月日のみ有効です。

説明：伝票の売上日をセットします。

例：令和5年10月5日＝2023/10/05

(4) 伝票番号

項目種類：鑑部

TYPE：文字

桁数：半角6文字以内

説明：伝票番号をセットします。「システム制御情報」メニューの「売上伝票番号の付番」設定が「システムで自動付番する(変更不可)」「ユーザごとに自動付番(変更不可)」「ユーザごとに自動付番(変更可)」のいずれかの場合は、セットした値は無視され、自動付番された値がセットされます。

省略時：「システム制御情報」メニューの「売上伝票番号の付番」設定が「システムで自動付番する(変更不可)」「ユーザごとに自動付番(変更不可)」「ユーザごとに自動付番(変更可)」のいずれかの場合は、自動付番された値がセットされます。それ以外の設定の場合は空文字がセットされます。

(5) 取引先コード(※)

項目種類：鑑部

TYPE：数値

有効値：1～999998

説明：取引先マスターに登録されている得意先(「取引関係」が「得意先」又は「得意先

+仕入先)」の取引先コードをセットします。それ以外のコードはエラーとなります。

例 : 取引先コードが「000005」の場合「5」
取引先コードが「000032」の場合「32」



ファイルの加工が必要となるケース、不要なケース

常に同一得意先からの売上データを読み込むという場合は「固定値」で取引先コードを設定することにより、シート上に取引先コードが存在しなくても読み込める可能性はあります。ただし、それ以外の場合は、Excelに取引先コードが必要です。お使いのシートに取引先名のみが存在する場合は、別途「取引先コード」の追加を検討ください。

(6) 消費税転嫁方式

項目種類：鑑部

TYPE：数値

有効値：「1」(外税/納品時)、「2」(内税)、「3」(外税/請求時)

説明：消費税転嫁方式をセットします。

①「掛/現金」が「11」(現金売上)の場合、「3」(外税/請求時)はセットできません。セットされた場合はエラーとなります。

②「掛/現金」が「12」(掛売上)で、かつ取引先マスターの「請求種別」が「締日請求」の場合は、セットできる値が次のとおり決まっています。その他の値がセットされた場合はエラーとなります。

行	取引先マスターの 「消費税転嫁方式」	セットできる値
1	外税/納品時	「1」(外税/納品時) 「2」(内税)
2	内税	「1」(外税/納品時) 「2」(内税)
3	外税/請求時	「3」(外税/請求時)

③「掛/現金」が「12」(掛売上)で、かつ取引先マスターの「請求種別」が「都度請求」の場合、「3」(外税/請求時)はセットできません。セットされた場合はエラーとなります。

省略時：次のとおりセットされます。

①「掛/現金」が「11」(現金売上)の場合

取引先マスターの「消費税転嫁方式」がセットされます。ただし、「外税/請求時」と設定されている場合は「1」(外税/納品時)がセットされます。

②「掛/現金」が「12」(掛売上)の場合

取引先マスターで「請求先」に指定されている取引先の(取引先マスター上の)「消費税転嫁方式」がセットされます。



ファイルの加工が必要となるケース、不要なケース

省略した場合は、マスターの設定値がみなしでセットされますが、明細ごとに値を変えたいという場合は、シートに列を追加する必要があります。

- (1) 取引先マスターで「得意先 a」は「消費税転嫁方式」が「外税/請求時」、「得意先 b」は「消費税転嫁方式」が「外税/納品時」と設定されているとします。シート上「消費税転嫁方式」に相当する列は存在しません。この場合、このシートを読み込むと、取引先マスターの設定に従い、行1は「外税/請求時」、行3、5は「外税/納品時」として読み込まれます。

行	売上日	得意先	商品	金額	...
1	11/1	得意先 a	A 商品	100, 000	
2			B 商品	200, 000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100, 000	
4			C 商品	300, 000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300, 000	

- (2) しかしながら、行5の伝票については「内税」だったとします。この場合、取引先マスターからみなしでセットされてしまうと、正しい値とならないため、下表のように列を追加し、転嫁方式をセットする必要があります。

行	売上日	得意先	商品	金額	転嫁
1	11/1	得意先 a	A 商品	100, 000	請
2			B 商品	200, 000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100, 000	納
4			C 商品	300, 000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300, 000	内税

(7) 国内/輸出

項目種類：鑑部

TYPE：数値

有効値：「1」(国内取引)、「2」(輸出免税)

説明：伝票における国内取引または輸出免税の区分をセットします。

省略時：取引先マスターの「国内/輸出」がセットされます。



ファイルの加工が必要となるケース、不要なケース

省略した場合は、マスターの設定値がみなしでセットされますが、明細ごとに値を変えたいという場合は、シートに列を追加する必要があります。

- (1) 取引先マスターで「得意先 a」「得意先 b」とも「国内/輸出」が「国内取引」と設定されているとします。シート上「国内/輸出」に相当する列は存在しません。この場合、このシートを読み込むと、取引先マスターの設定に従い、行1、3、5すべて「国

内取引」として読み込まれます。

行	売上日	得意先	商品	金額	...
1	11/1	得意先 a	A 商品	100,000	
2			B 商品	200,000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100,000	
4			C 商品	300,000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300,000	

(2) しかしながら、行5の伝票については「輸出免税」だったとします。この場合、取引先マスターからみなしでセットされてしまうと、正しい値とならないため、下表のように列を追加し、「国内/輸出」をセットする必要があります。

行	売上日	得意先	商品	金額	国/輸
1	11/1	得意先 a	A 商品	100,000	国内
2			B 商品	200,000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100,000	国内
4			C 商品	300,000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300,000	輸出

(8) 先方担当者名

項目種類：鑑部

TYPE：文字

桁 数：全角12文字(半角24文字)以内

説 明：得意先の担当者名をセットします。

省 略 時：次のとおりです。

①取引先マスターで「先方担当者氏名」を設定している場合

当該先方担当者氏名がセットされます。

②上記①以外の場合

空文字がセットされます。

(9) 先方担当者敬称

項目種類：鑑部

TYPE：文字

桁 数：全角2文字以内

説 明：「様」「先生」「殿」「」（なし）いずれかをセットします。

省 略 時：次のとおりです。

①取引先マスターで「先方担当者敬称」を設定している場合

当該先方担当者敬称がセットされます。

②上記①以外の場合

空文字がセットされます。

(10) 担当者社員番号

項目種類：鑑部

TYPE : 数値

有効値 : 1~9999999

説明 : 当社の担当者の社員番号を入力します。存在しない番号の場合はエラーとなります。

省略時 : 次のとおりです。

①取引先マスターで「担当者」を設定している場合

当該担当者の社員番号がセットされます。

②上記①以外の場合

1)「売上傳票の入力定義」メニューで「担当者」の入力を必須としている場合
エラーとなります。

2)上記1)以外の場合

空文字がセットされます。



ファイルの加工が必要となるケース、不要なケース

省略した場合は、マスターの設定値がみなしでセットされますが、明細ごとに値を変えたいという場合は、シートに列を追加する必要があります。

(1) 取引先マスターで「得意先 a」「得意先 b」とも「担当者社員番号」が「0001」と設定されているとします。シート上「担当者社員番号」に相当する列は存在しません。この場合、このシートを読み込むと、取引先マスターの設定に従い、行1、3、5すべて「0001」として読み込まれます。

行	売上日	得意先	商品	金額	...
1	11/1	得意先 a	A 商品	100,000	
2			B 商品	200,000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100,000	
4			C 商品	300,000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300,000	

(2) しかしながら、行5の伝票については担当が「0002」だったとします。この場合、取引先マスターからみなしでセットされてしまうと、正しい値とならないため、下表のように列を追加し、「担当者社員番号」をセットする必要があります。

行	売上日	得意先	商品	金額	社番
1	11/1	得意先 a	A 商品	100,000	0001
2			B 商品	200,000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100,000	0001
4			C 商品	300,000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300,000	0002

(11) 部門コード

項目種類 : 鑑部

TYPE : 文字

桁数 : 半角数字3文字

説明：部門コードをセットします。部門別管理している場合は必須です。存在しないコードの場合はエラーとなります。部門別管理していない場合は何がセットされていても無視されます。

省略時：次のとおりです。

①部門別管理している場合

1)「担当者社員番号」をセットしている場合

当該担当者の所属部門がセットされます。

2)上記1)以外の場合

a.取引先マスターで「担当者」を設定している場合

当該担当者の所属部門がセットされます。

b.上記a.以外の場合

エラーとなります。

②上記①以外の場合

空文字がセットされます。



ファイルの加工が必要となるケース、不要なケース

担当者社員番号がシートに存在せず、かつ部門別管理を行っている場合において、常に同一部門の売上データとして読み込むというときは「固定値」で部門コードを設定することにより、シート上に部門コードが存在しなくても読み込める可能性はあります。ただし、それ以外の場合は、Excelに部門コードが必要です。お使いのシートに存在しない場合は、別途「部門コード」の追加を検討ください。

(12)請求日区分

項目種類：鑑部

TYPE：数値

有効値：「1」(約定通り)、「2」(任意入力)

説明：「掛/現金」が「12」(掛売上傳票)の場合に約定通りの請求日か否かをセットします。

①取引先マスターの「請求種別」が「都度請求」の場合は「2」をセットしてください。「1」がセットされた場合はエラーとなります。

②「掛/現金」が「11」(現金売上傳票)の場合は何がセットされていても無視されます。

省略時：取引先マスターの「請求種別」が「締日請求」の場合は「1」、「都度請求」の場合は「2」がセットされます。

(13)請求日

項目種類：鑑部

TYPE：日付

有効値：西暦(YYYY/MM/DD形式)

説明：売掛金の請求日をセットします。

①「請求日区分」が「1」(約定通り)の場合は、当項目の日付に関係なく、システムで自動計算された請求日がセットされます。

②「掛/現金」が「11」(現金売上傳票)の場合は何がセットされていても無視されます。

例 : 令和5年10月5日=2023/10/05

省 略 時 : 取引先マスターの「請求種別」が「都度請求」の場合は「売上日」がセットされます。「締日請求」の場合は、システムで自動計算された請求日がセットされます。

(14)回収予定日区分

項目種類 : 鑑部

T Y P E : 数値

有 効 値 : 「1」(約定通り)、「2」(任意入力)

説 明 : 「掛/現金」が「12」(掛売上傳票)の場合に約定通りの回収日か否かをセットします。なお、「掛/現金」が「11」(現金売上傳票)の場合は何がセットされていても無視されます。

省 略 時 : 「1」がセットされます。

(15)回収予定日

項目種類 : 鑑部

T Y P E : 日付

説 明 : 売掛金の回収予定日を西暦でセットします。なお、「掛/現金」が「11」(現金売上傳票)の場合は何がセットされていても無視されます。また、「回収日区分」が「1」(約定通り)の場合は、当項目の日付に関係なく、システムで自動計算された回収予定日がセットされます。

例 : 令和5年10月5日=2023/10/05

省 略 時 : システムで自動計算された回収予定日がセットされます。

(16)伝票摘要

項目種類 : 鑑部

T Y P E : 文字

桁 数 : 全角40文字(半角80文字)以内

説 明 : 伝票摘要をセットします。

省 略 時 : 空文字がセットされます。

(17)取引区分

項目種類 : 明細部

T Y P E : 文字

桁 数 : 全角4文字(半角8文字)以内

説 明 : 商品の取引区分をセットします。「販売管理取引区分」メニューの「売上取引」タブに登録されている「取引区分名」をセットしてください。なお、登録していない「取引区分名」はエラーとなります。

省 略 時 : 商品マスターに登録されている当該商品コードの取引区分がセットされます。



ファイルの加工が必要となるケース、不要なケース

省略した場合は、マスターの設定値がみなしでセットされますが、明細ごとに値を変えたいという場合は、シートに列を追加する必要があります。

- (1) 取引先マスターで「得意先 a」「得意先 b」とも「取引区分」が「売上 1」と設定されているとします。シート上「取引区分」に相当する列は存在しません。この場合、このシートを読み込むと、取引先マスターの設定に従い、行1、3、5すべて「売上 1」として読み込まれます。

行	売上日	得意先	商品	金額	...
1	11/1	得意先 a	A 商品	100, 000	
2			B 商品	200, 000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100, 000	
4			C 商品	300, 000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300, 000	

- (2) しかしながら、行5の伝票については「売上 2」だったとします。この場合、取引先マスターからみなしでセットされてしまうと、正しい値とならないため、下表のように列を追加し、「取引区分」をセットする必要があります。

行	売上日	得意先	商品	金額	区分
1	11/1	得意先 a	A 商品	100, 000	売上1
2			B 商品	200, 000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100, 000	売上1
4			C 商品	300, 000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300, 000	売上2

(18) 課否区分

項目種類：明細部

TYPE：数値

有効値：「1」（課税）、「2」（非課税）、「3」（不課税）

説明：商品の課否区分をセットします。課税の場合は「1」、非課税の場合は「2」、不課税の場合は「3」をセットします。

- ①「商品コード」でセットした当該商品が、商品マスターで「税込み単価固定で取引する商品」と設定されている場合は「1」（課税）をセットしてください。
- ②次のすべての条件に合致する場合は「2」（非課税）をセットしてください。
 - 1)「商品コード」でセットした当該商品を、商品マスターで「税込み単価固定で取引する商品」と設定していない。
 - 2) 当該商品の売上取引の課否区分を「課税」と設定している。
 - 3) 当該商品を「電気通信利用役務・特定役務の提供」に「該当する」と設定している。
 - 4)「国内/輸出」が「2」（輸出免税）である。

省略時：商品マスターに登録されている当該商品コードの課否区分がセットされます。



ファイルの加工が必要となるケース、不要なケース

省略した場合は、マスターの設定値がみなしでセットされますが、明細ごとに値を変えたいという場合は、シートに列を追加する必要があります。

- (1) 商品マスターで「A商品」「B商品」「C商品」とも「課否区分」が「課税」と設定されているとします。シート上「課否区分」に相当する列は存在しません。この場合、このシートを読み込むと、取引先マスターの設定に従い、行1、3、5すべて「課税」として読み込まれます。

行	売上日	得意先	商品	金額	...
1	11/1	得意先 a	A 商品	100, 000	
2			B 商品	200, 000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100, 000	
4			C 商品	300, 000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300, 000	

- (2) しかしながら、行5のC商品については「非課税」だったとします。この場合、取引先マスターからみなしでセットされてしまうと、正しい値とならないため、下表のように列を追加し、「課否区分」をセットする必要があります。

行	売上日	得意先	商品	金額	区分
1	11/1	得意先 a	A 商品	100, 000	課税
2			B 商品	200, 000	
3	11/2	得意先 b	A 商品	100, 000	課税
4			C 商品	300, 000	
5	11/3	得意先 b	C 商品	300, 000	非課税

(19) 商品コード(*)

項目種類：明細部

TYPE：文字

桁数：半角16文字以内

説明：商品マスターに登録している商品コードをセットします。登録していない商品コードはエラーとなります。



ファイルの加工が必要となるケース、不要なケース

商品をマスター管理せず、共通の商品コードを使用して伝票入力時に名称を変更するような運用をしている場合は「固定値」で商品コードを設定することにより、シート上に商品コードが存在しなくても読み込める可能性はあります。ただし、それ以外の場合は、Excelに商品コードが必要です。お使いのシートに商品名のみが存在する場合は、別途「商品コード」の追加を検討ください。

(20) 商品名

項目種類：明細部

T Y P E：文字

桁 数：全角40文字(半角80文字)以内

説 明：商品名をセットします。有効桁数以上セットされている場合、エラーとなります。

省 略 時：商品マスターに登録されている当該商品コードの商品名がセットされます。

(21) 商品規格

項目種類：明細部

T Y P E：文字

桁 数：全角10文字(半角20文字)以内

説 明：商品規格をセットします。有効桁数以上セットされている場合、エラーとなります。

省 略 時：商品マスターに登録されている当該商品コードの商品規格がセットされます。

(22) 商品単位

項目種類：明細部

T Y P E：文字

桁 数：全角3文字(半角6文字)以内

説 明：商品単位をセットします。有効桁数以上セットされている場合、エラーとなります。

省 略 時：商品マスターに登録されている当該商品コードの商品単位がセットされます。

(23) 入数

項目種類：明細部

T Y P E：数値

有 効 値：0～99,999,999（ただし、商品マスター上、当該商品が数量の小数入力をする設定の場合は「0.0000～999,999.9999」（小数点以下有効桁数は当該商品の設定によります））

説 明：商品の入数をセットします。マイナス値をセットした場合はエラーとなります。

省 略 時：0がセットされます。

(24) ケース数

項目種類：明細部

T Y P E：数値

有 効 値：-99,999,999～99,999,999

説 明：商品のケース数をセットします。小数点以下の値をセットした場合はエラーとなります。

省 略 時：0がセットされます。

(25) バラ数

項目種類：明細部

T Y P E：数値

有 効 値：-99,999,999～99,999,999（ただし、商品マスター上、当該商品が数量の小数

入力をする設定の場合は「-999, 999. 9999～999, 999. 9999」（小数点以下有効桁数は当該商品の設定によります）

説 明：商品のバラ数をセットします。「入数」にセットした値以上をセットした場合はエラーとなります。

省 略 時：0がセットされます。

(26) 数量

項目種類：明細部

T Y P E：数値

有 効 値：-99, 999, 999～99, 999, 999（ただし、商品マスター上、当該商品が数量の小数入力をする設定の場合は「-999, 999. 9999～999, 999. 9999」（小数点以下有効桁数は当該商品の設定によります）

説 明：商品の数量をセットします。数量をセットしている場合の数量の取り扱いには「入数」「ケース数」「バラ数」のセット状況により以下の通りとなります。

入数	ケース数	バラ数	セットした数量の取り扱い
○	○	○	「入数×ケース数+バラ数」の計算値と一致していたら読み込む。異なっている場合はエラー
		×	同上
	×	○	同上
		×	「入数」が入っている場合は、数量からケース数、バラ数を自動計算して読み込みます
×	○	○	「入数」が省略されている場合は、ケース数、バラ数を0としたうえで数量のみを読み込みます
		×	同上
	×	○	同上
		×	同上

○：セットしている

×：省略している または 0（ゼロ）をセットしている

省 略 時：「入数×ケース数+バラ数」の計算値が自動的にセットされます。ただし、入数、ケース数およびバラ数によって自動計算された値が有効桁数を超えている場合はエラーとなります。

(27) 売上単価

項目種類：明細部

T Y P E：数値

有 効 値：-999, 999, 999～999, 999, 999（ただし、商品マスター上、当該商品が売上単価の小数入力をする設定の場合は「-999, 999. 9999～999, 999. 9999」（小数点以下有効桁数は当該商品の設定によります）

説 明：商品の売上単価をセットします。なお、商品マスターで当該商品コードの商品

が「税込み単価固定で取引する商品」と設定されている場合に、商品マスターに登録されている「税込み単価」と異なる値をセットしたときはエラーとなります。なお、「取引区分」にセットした取引種類が「値引」または「諸掛」の場合は、セットされていても無視され0となります。

省 略 時：0がセットされます。

(28) 金額

項目種類：明細部

T Y P E：数値

有 効 値：-999, 999, 999～999, 999, 999

説 明：商品の金額をセットします。

①「取引区分」にセットした取引種類が「値引」または「返品」の場合は、マイナス値でセットしてください。

②金額をセットした場合でかつ「数量」「売上単価」を共にセットした場合、セットした金額の値が「数量」×「売上単価」と異なっている場合はエラーとなります。

省 略 時：「数量」×「単価」の計算値がセットされます。

(29) 仕入単価

項目種類：明細部

T Y P E：数値

有 効 値：-999, 999, 999～999, 999, 999（ただし、商品マスター上、当該商品が仕入単価の小数入力をする設定の場合は「-999, 999. 9999～999, 999. 9999」（小数点以下有効桁数は当該商品の設定によります））

説 明：商品の仕入単価をセットします。なお、「取引区分」にセットした取引種類が「値引」または「諸掛」の場合は、セットされていても無視され0となります。

省 略 時：0がセットされます。

(30) 税率

項目種類：明細部

T Y P E：数値

有 効 値：税率テーブルに登録された税率(整数)

説 明：商品の税率をセットします。「消費税情報」メニューの税率テーブルに登録されている「税率」をセットしてください。

①「国内/輸出」に「1」（国内取引）、かつ「課否区分」に「1」（課税）をセットした場合はセット必須となります。

②「課否区分」に「2」（非課税）または「3」（不課税）をセットした場合、または「国内/輸出」に「2」（輸出免税）をセットした場合は税率をセットしていても無視されます。

省 略 時：次のとおりです。

①「国内/輸出」が「1」（国内取引）で、かつ「課否区分」が「1」（課税）の場合エラーとなります。

②上記①以外の場合

空文字がセットされます。

注意事項：税率は整数でセットしてください（例：10%の場合は「10」）。Excelの「セルの書式設定」で「表示形式」を「パーセンテージ」としている場合、画面上「10%」と表示されていても、実際のセルには「0.1」がセットされています。このため、そのまま当該セルを指定するとエラーになってしまいます。この場合は、例えば「計算式の設定」で「[列の値 (セルの値)] × 100」という計算式を設定することで読み込めるようになります。



ファイルの加工が必要となるケース、不要なケース

単一税率の商品のみを取り扱っている場合は、「固定値」で税率を設定することにより、シート上に税率が存在しなくても読み込める可能性はあります。ただし、それ以外の場合は、Excelに税率が必要です。複数税率の商品を取り扱っており、かつお使いのシートに税率が存在しない場合は、別途「税率」の追加を検討ください。

(31) 軽減税率区分

項目種類：明細部

TYPE：数値

有効値：「0」（標準税率）、「1」（軽減税率）

説明：軽減税率に該当する商品の場合は「1」をセットします。「消費税情報」メニューの税率テーブルに軽減税率として登録されている「税率」（整数）をセットしてください。

①軽減税率に該当しない商品の場合は「0」をセットします。「消費税情報」メニューの税率テーブルの標準税率または経過措置等の税率に登録されている「税率」（整数）をセットしてください。

②「課否区分」に「2」（非課税）または「3」（不課税）をセットした場合、または「国内/輸出」に「2」（輸出免税）をセットした場合は軽減税率区分をセットしていても無視されます。

省略時：「0」がセットされます。

(32) 事業区分

項目種類：明細部

TYPE：数値

有効値：「1」（卸売り）、「2」（小売り）、「3」（製／建）、「4」（その他）、「5」（サービス）、「6」（不動産）

説明：商品の事業区分をセットします。

次の場合は事業区分がセットされていても無視されます。

- ・「売上日」≠適用期間の場合
- ・「消費税情報」メニューで「主たる事業区分」が設定されていない場合
- ・「課否区分」に「2」（非課税）または「3」（不課税）をセットした場合
- ・「国内/輸出」に「2」（輸出免税）をセットした場合

省 略 時：次のとおりです。

①「売上日」が「消費税情報」メニューの主たる事業区分の適用期間内の場合
次の順番で設定された事業区分がセットされます。

- 1) 商品マスターで登録された当該商品の事業区分
- 2) 取引先マスターで登録された当該得意先の事業区分
- 3) 「消費税情報」メニューで登録された自社の主たる事業区分

②上記①以外の場合

空文字がセットされます。

(33) 行摘要

項目種類：明細部

T Y P E：文字

桁 数：全角13文字(半角26文字)以内

説 明：行摘要をセットします。

省 略 時：空文字がセットされます。

(34) 伝票消費税計

項目種類：合計部

T Y P E：数値

有 効 値：-999,999,999～999,999,999

説 明：「消費税転嫁方式」に「1」（外税/納品時）をセットした場合は外税消費税合計、
「2」（内税）をセットした場合は内税消費税合計をセットします。

①セットした値がシステムで自動計算した値と異なっている場合はエラーとなります。

②「消費税転嫁方式」に「3」（外税/請求時）をセットした場合または「国内/輸出」に「2」（輸出免税）をセットした場合、0以外の値をセットするとエラーとなります。

省 略 時：システムによる自動計算値がセットされます。

(35) 伝票源泉税計

項目種類：合計部

T Y P E：数値

有 効 値：-999,999,999～999,999,999

説 明：「掛/現金」に「11」（現金売上傳票）をセットした場合、又は「掛/現金」が「12」（掛売上傳票）で、かつ取引先マスターの「請求種別」が「都度請求」の場合は、源泉所得税の計算対象となる取引について源泉税合計をセットします。

①セットした値がシステムで自動計算した値と異なっている場合はエラーとなります。

②「掛/現金」に「11」（現金売上傳票）をセットした場合、又は「掛/現金」が「12」（掛売上傳票）で、かつ取引先マスターの「請求種別」が「都度請求」の場合に該当しないときは、0以外の値をセットするとエラーとなります。

③また、上記②に該当する場合でも、源泉所得税の計算対象となる取引以外で0以外の値をセットするとエラーとなります。源泉所得税の計算対象となる

取引は次の3つの条件をすべて満たした取引です。

- 1)「運用基本設定」メニューで「報酬・料金等の源泉所得税等の計算」を「計算する」としている。
- 2)取引先マスターの「源泉徴収義務」を「あり」としている。
- 3)商品マスターの「源泉所得税等の計算区分」を「対象1」「対象2」のいずれかに設定した商品を取引データに含む。

省 略 時：システムによる自動計算値がセットされます。

VI エラーメッセージ

取引データの読込時には、読込元となるExcelファイルと、選択したExcelフォーマットの情報に基づき、①一旦「V インポートする「取引データ」のレイアウト」のレイアウトに変換された後、②読込処理が実行されます。①のレイアウト変換が正常にされなかった場合、また②の読込処理前の論理チェックの結果、読み込めないデータだった場合には読込処理が中止されます。この際、それぞれ次のエラーメッセージが表示されます。エラーメッセージが表示された場合は、メッセージの内容と表示条件を基に、読込元となったExcelファイル又はExcelフォーマット情報を修正してください。

1. レイアウト変換時のエラーメッセージ

「ファイル選択」画面でファイルを選択し、[データ確認]ボタンをクリックした際に、「売上データ」のファイルレイアウトに変換されます。この際に、変換が正しく行われなかった場合は、該当する行番号と該当する行番号とエラーの内容が表示されます。エラーの内容は次のとおりです。

メッセージ	表示条件
読込テンプレートが未設定です(項目名)	Excelフォーマットの「読込テンプレートの設計」画面で「条件に応じた値」「計算した値」「文字列の編集値」のいずれかが選択されているが、設定値が存在しない(未設定)である
明細部○行目:計算式に誤った値がセットされています(項目名)	「読込テンプレートの設計」画面でデータ項目に「計算した値」を設定するか、「条件式」の中で「計算した値」を設定した場合に、次の理由により計算が正常にできなかったとき ・計算式に数値以外の値が含まれている ・ゼロ除算が発生している
明細部○行目:データ項目の型に誤りがあります(項目名)	・データ項目の型とセットされている値の型が異なる(例:数値項目に「ABC」という文字がセットされている) ・必須項目に値がセットされていない
存在しない得意先です	・取引先マスターに存在しない「取引先コード」が入力されている ・「取引先コード」に「取引関係」が「得意先」「得意先+仕入先」以外の取引先のコードが入力されている
存在しない担当者です	社員マスターに存在しない「担当者社員番号」が入力されている
明細部○行目:存在しない商品です	商品マスターに存在しない「商品コード」が入力されている

2. 「論理チェック」に該当した際のエラーメッセージ

「計上対象取引一覧」画面で[一括読込]ボタンをクリックした際に論理チェックが実行

されます。結果、エラーがある場合は、「整合性チェック」画面が表示され、該当する行番号とエラーの内容が表示されます。エラーの内容は次のとおりです。なお、表示される行番号はレイアウト変換後のものとなりますのでご注意ください。

メッセージ	表示条件
売上日を入力してください	・「売上日」に西暦年月日(8桁)でない形式で日付が入力されている ・「売上日」が未入力である
直近の月次更新完了月の伝票入力は禁止されています	・会計事務所の設定により、「前月」(直近の月次更新完了月)の伝票入力が禁止されているが、「売上日」が「前月」の日付である
この月の入力はできません。直近の月次更新完了月以降を入力してください	・「前月」(直近の月次更新完了月)より前の日付が「売上日」に入力されている
会計事務所が監査中のため、この月の伝票は訂正・加除できません。詳しくは会計事務所にお問合せください	・会計事務所が監査中のため、監査対象月の伝票入力が一時的に禁止されているが、「売上日」が「前月」の日付である
入力できる「売上日」はyyyy年mm月dd日までです	「売上日」に入力可能月(「当月」(直近の月次更新完了月の翌月)から4か月間)の範囲外の日付が入力されている (例) 4月まで月次更新済みの場合、8月までの売上日の仕訳が読み込み可
伝票番号を入力してください	・「伝票番号」に有効値以外の値が入力されている
得意先を入力してください	・「取引先コード」に有効値以外の値が入力されている。 ・「取引先コード」が未入力である
存在しない得意先です	・取引先マスターに存在しない「取引先コード」が入力されている ・「取引先コード」に「取引関係」が「得意先」「得意先＋仕入先」以外の取引先のコードが入力されている
先方担当者を入力してください	「先方担当者」に有効値以外の値が入力されている
先方担当者は全角12文字(半角24文字)以内で入力してください	「先方担当者」に有効桁数を超えた値が入力されている
存在しない敬称です	「先方担当者敬称」に有効値以外の値が入力されている
担当者コードを入力してください	「担当者社員番号」に有効値以外の値が入力されている
存在しない担当者です	社員マスターに存在しない「担当者社員番号」が入力されている
担当者が入力されていません	「売上伝票の入力定義」で担当者の入力を必須と設定

	しているが、「担当者社員番号」が未入力である
無効な部門コードが入力されています	部門マスターに存在しない「部門コード」が入力されている
部門コードが入力されていません	部門別管理しているが「部門コード」が未入力である
部門コードを入力してください	「部門コード」に有効値以外の値が入力されている
掛/現金を入力してください	「掛/現金」に有効値以外の値が入力されている
「999999その他取引先」は売掛金残高を他の得意先に振替える場合に選択します。掛/現金は「掛売上」を選択してください	得意先が「999999その他取引先」で、かつ「現金売上」が選択されている
掛/現金が「現金売上」の場合、消費税転嫁方式は「外税/請求時」にできません	「掛/現金」が「11」(現金売上)で、「消費税転嫁方式」が「3」(外税/請求時)
消費税転嫁方式を入力してください	「消費税転嫁方式」に有効値以外の値が入力されている
無効な消費税転嫁方式が入力されています	- 取引先マスターの「消費税転嫁方式」の設定が「外税/請求時」の場合に、「1」(外税/納品時)又は「2」(内税)をセットしている。 - 取引先マスターの「消費税転嫁方式」の設定が「外税/納品時」又は「内税」の場合に、「3」(外税/請求時)をセットしている
「都度請求」の得意先の場合、消費税転嫁方式は「外税/請求時」にできません	取引先マスターの「請求種別」の設定が「都度請求」の場合に、「3」(外税/請求時)をセットしている
請求日が約定通りかを入力してください	「請求日区分」に有効値以外の値が入力されている
請求日を入力してください	「請求日」に有効値以外の値が入力されている 「請求日区分」が「2」(任意入力)だが、「請求日」が未入力である
回収予定日を入力してください	「回収予定日」に有効値以外の値が入力されている 「回収予定日区分」が「2」(任意入力)だが、「回収予定日」が未入力である
請求日には、売上日以降の日付を入力してください	「請求日 < 売上日」となる日付が入力されている
適格請求書発行事業者ではない場合、又は登録日が2023年10月2日以降の場合、売上日と請求日が2023年10月1日をまたぐことはできません。請求日を2023年9月30日以前の日付としてください	次のすべての条件を満たす場合 (1) 請求日が「任意入力」である (2) 「売上日～請求日」が自社の適格請求書発行事業者の「登録日」をまたいでいる (3) 自社の適格請求書発行事業者としての「登録日」が「2023/10/2」以降である

売上日と請求日が適格請求書発行事業者の失効・取消日をまたぐことはできません。請求日を失効・取消日の前日以前の日付としてください	次のすべての条件を満たす場合 (1) 請求日が「任意入力」である (2) 「売上日～請求日」が自社の適格請求書発行事業者の「失効・取消日」をまたいでいる
回収予定日には、売上日より新しい日付を入力してください	「回収予定日 < 売上日」となる日付が入力されている
回収予定日には、請求日より新しい日付を入力してください	「回収予定日 < 請求日」となる日付が入力されている
伝票摘要は全角40文字(半角80文字)以内で入力してください	「伝票摘要」に有効桁数を超えた値が入力されている
明細部は入力が必須の項目です	明細部に明細が入力されていない(件数0)
60行を超える明細は入力できません	1 伝票あたりの明細数が61行以上存在する
取引区分を入力してください	・「取引区分」に有効値以外の値が入力されている。 ・「取引区分」が未入力である
明細部○行目: 存在しない取引区分です	取引区分マスターに存在しない「取引区分」が入力されている
課否区分を入力してください	・「課否区分」に有効値以外の値が入力されている。 ・「課否区分」が未入力である
明細部○行目: 非課税の商品の場合、課否区分には非課税を選択してください	「販売管理仕訳」メニューで課税区分が[1][11]のいずれか(課税)に設定された取引区分の明細で、かつ商品マスターの課否区分が「非課税」の商品について、「2」(非課税)がセットされていない
明細部○行目: 不課税の商品の場合、課否区分には不課税を選択してください	「販売管理仕訳」メニューで課税区分が[1][11]のいずれか(課税)に設定された取引区分の明細で、かつ商品マスターの課否区分が「不課税」の商品について、「3」(不課税)がセットされていない
明細部○行目: 「電気通信利用役務」に該当する商品の場合、課否区分には不課税を選択してください	「国内/輸出」が「0」(輸出免税)、かつ商品マスターの売上取引の課否区分が「課税」で、かつ「電気通信利用役務」又は「芸能・スポーツ等の特定役務」に該当する商品について、「3」(不課税)がセットされていない
明細部○行目: 「999999その他取引先」は売掛金残高を他の得意先に振替える場合を選択します。課否区分には不課税を選択し、振替額(マイナス金額)を入力してください	得意先が「999999その他取引先」の場合に、「不課税」以外の課否区分がセットされている
非課税・不課税の取引では、税込み単価固定の商品は入力できません	税込み単価固定で取引する商品の明細に、「非課税」「不課税」のいずれかがセットされている。
商品コードを入力してください	・「商品コード」に有効値以外の値が入力されている。 ・「商品コード」が未入力である

明細部○行目：存在しない商品です	商品マスターに存在しない「商品コード」が入力されている
明細部○行目：輸出取引では常に内税で取引する商品は入力できません	「国内/輸出」が「輸出取引」の場合に、税込み単価固定で取引する商品が入力されている
明細部○行目：販売管理仕訳の設定により「不課税」のみ入力可能な商品明細に「不課税」以外が入力されています	商品明細の取引区分に対して「販売管理仕訳」メニューで設定した課税区分が不課税（※）の場合に、当該商品明細の課否区分が不課税以外である ※販売管理仕訳の設定で不課税となる課税区分：0
明細部○行目：販売管理仕訳の設定により「非課税」のみ入力可能な商品明細に「非課税」以外が入力されています	商品明細の取引区分に対して「販売管理仕訳」メニューで設定した課税区分が非課税（※）の場合に、当該商品明細の課否区分が非課税以外である ※販売管理仕訳の設定で非課税となる課税区分：0、1、11、12、2、21以外
明細部○行目：輸出取引の場合、非課税の取引では、輸出時不課税となる商品は入力できません	「国内/輸出」が「輸出取引」で、取引区分マスターの課否区分が非課税の場合に、「輸出時不課税とする商品」を選択している。 ※販売管理仕訳の設定で非課税となる課税区分：0、1、11、12、2、21以外 ※輸出時不課税とする商品：商品マスターの「売上取引」の「課否区分」が「課税」で、かつ「税込み単価固定で取引する商品」以外で、かつ「電気通信利用役務・特定役務の提供」に「該当する」商品
商品名を入力してください	「商品名」に有効値以外の値が入力されている
明細部○行目：商品名は全角40文字（半角80文字）以内で入力してください	「商品名」に有効桁数を超えた値が入力されている
商品単位を入力してください	「商品単位」に有効値以外の値が入力されている
明細部○行目：商品単位は全角3文字（半角6文字）以内で入力してください	「商品単位」に有効桁数を超えた値が入力されている
商品規格を入力してください	「商品規格」に有効値以外の値が入力されている
明細部○行目：商品規格は全角10文字（半角20文字）以内で入力してください	「商品規格」に有効桁数を超えた値が入力されている
入数を入力してください	「入数」に有効値以外の値が入力されている
明細部○行目：入数が有効桁数を超過しています	「入数」に有効桁数を超過した値が入力されている
明細部○行目：入数にはプラスの数値	「入数」にマイナスの値が入力されている

を入力してください	
ケース数を入力してください	「ケース数」に有効値以外の値が入力されている
明細部○行目：バラ数には入数より小さい値を入力してください	「バラ数」に「入数」以上の値がセットされている
明細部○行目：バラ数とケース数は同じ符号(プラス・マイナス)で入力してください	「バラ数」と「ケース数」の正負が異なる
明細部○行目：バラ数が有効桁数を超えています	「バラ数」に有効桁数を超えた値が入力されている
数量を入力してください	「数量」に有効値以外の値が入力されている
明細部○行目：数量が有効桁数を超えています	「数量」に有効桁数を超えた値が入力されている
仕入単価を入力してください	「仕入単価」に有効値以外の値が入力されている
明細部○行目：仕入単価が有効桁数を超えています	「仕入単価」に有効桁数を超えた値が入力されている
売上単価を入力してください	「売上単価」に有効値以外の値が入力されている
明細部○行目：売上単価が有効桁数を超えています	「売上単価」に有効桁数を超えた値が入力されている
取引金額を入力してください	「金額」に有効値以外の値が入力されている
明細部○行目：数量、売上単価から求めた金額と取引金額が一致しません	「数量」と「売上単価」のいずれも 0 より大きい場合に、 「数量」×「売上単価」を端数処理した値と異なる値が 「取引金額」にセットされている。なお、端数処理方法は、得意先の「明細金額（数量×単価）の端数処理」の設定に基づき行う。
明細部○行目：粗利益額が-999999999～999999999の範囲内に収まるように入力してください	「数量」×（「売上単価」－「仕入単価」）が有効桁数を超えている
明細部○行目：誤った税率が入力されています	税率テーブルに存在しない税率が入力されている
税率を入力してください	・「税率」に有効値以外の値が入力されている。 ・「税率」が未入力である
明細部○行目：輸出取引の場合、税率は選択できません	輸出取引で税率が選択されている
明細部○行目：販売管理仕訳の設定により「非課税」のみ入力可能な商品明細に税率が入力されています	商品明細の取引区分について、販売管理仕訳で設定した課税区分が非課税（※）の場合に税率が選択されている ※販売管理仕訳の設定で非課税となる課税区分： 0、1、11、12、2、21以外

明細部○行目：販売管理仕訳の設定により「不課税」のみ入力可能な商品明細に税率が入力されています	商品明細の取引区分について、販売管理仕訳で設定した課税区分が不課税（※）の場合に税率が選択されている ※販売管理仕訳の設定で不課税となる課税区分：0
軽減税率かを入力してください	「軽減税率区分」に有効値以外の値が入力されている。
明細部○行目：誤った税率が入力されています	・軽減税率区分が「1」(軽減税率)だが、税率テーブルの軽減税率に登録されている「税率」（整数）と異なる ・軽減税率区分が「0」(標準税率)だが、税率テーブルの標準税率又は経過措置等の税率に登録されている「税率」（整数）と異なる
明細部○行目：売上日が主たる事業区分の適用期間外のため、事業区分は入力できません	売上日は事業区分適用期間外だが、「事業区分」が入力されている
明細部○行目：課税以外の商品のため、事業区分は入力できません	明細の課否区分が「課税」ではないが「事業区分」が入力されている
明細部○行目：販売管理仕訳の設定により事業区分を入力できない商品明細に事業区分が入力されています	販売管理仕訳の課税区分が[1][11]以外に設定されているが、「事業区分」が入力されている
明細部○行目：売上日が主たる事業区分の適用期間内のため、事業区分を入力してください	売上日は事業区分適用期間内だが、「事業区分」が入力されていない
行摘要を入力してください	「行摘要」に有効値以外の値が入力されている
明細部○行目：行摘要は全角13文字（半角26文字）以内で入力してください	「行摘要」に有効桁数を超えた値が入力されている
伝票合計の金額が有効桁数を超過しています	取引金額（合計）の絶対値が999999999を超えている
消費税額が正しくありません	・「消費税転嫁方式」が「3」（外税/請求時）だが、「伝票消費税計」に0以外の値がセットされている ・「国内/輸出」が「0」（輸出免税）だが、「伝票消費税計」に0以外の値がセットされている ・「伝票消費税計」がシステムで自動計算した値と異なる
消費税転嫁方式が「外税/納品時」の場合、税率ごとに外税商品の明細を1件以上入力する必要があります。「税込み単価固定で取引する商品」のみの入力はできません	「消費税転嫁方式」が「1」（外税/納品時）の売上伝票で、同一税率に「内税固定商品」の商品明細しか入力されていないものがある

Ⅶ 取引データの読込に関するQ & A

1. ファイル形式

Q 1 : データ連携する際のファイル形式はどうなりますか。

A 1 : E X C E Lファイル(拡張子xlsx)になります。

Q 2 : C S V形式の読込はできませんか。

A 2 : E X C E Lファイル(拡張子xlsx)のみになります。仕訳データがC S Vの場合はE X C E Lファイルに変換を行ってください。

Q 3 : ファイル名に指定はありますか。

A 3 : ファイル名に指定はありません。

2. 「取引データ」の読み込み

Q 1 : ファイルはF XクラウドシリーズがインストールされているP Cに保管する必要がありますか。

A 1 : ありません。読み込み処理を行うP Cから開けるファイルであれば、サーバや他のP Cに保管されているファイルでも問題ありません。

3. 「取引データ」の各データ項目

Q 1 : 各データ項目にはすべて値をセットしなくてはならないのですか？

A 1 : 必須項目と任意項目があります。任意項目については値をセットせずに省略することが可能です。省略した場合は、システムで自動的に値がセットされます。このみなし処理については、上記Ⅴ－2. 「売上データ」のデータ項目の詳細」を参照してください。

4. テスト

Q 1 : データを作成したので読込のテストを実施したいのですが、どのように行えばよいですか。

A 1 : 本稼働しているF Xクラウドシリーズで読込を行い、正常に読込が完了しても一括読込ボタンを押さない限りは取引データとしてシステムに反映されません。従って、利用中のF Xクラウドシリーズでテストを実施することが可能です。

5. 運用・操作

Q 1 : 読込んだデータと手入力したデータと何か違いがありますか。

A 1 : 伝票確認時に画面上に「Excel読込データ」と表示されます。

Q 2 : 読込んだデータはF Xクラウドシリーズ上で確認することができますか？ また、どのように確認するのですか。

A 2 : 通常の手入力した伝票と同じように確認することができます。

F Xクラウドシリーズ 販売管理機能への取引データ読込(Excel)機能マニュアル

令和6年12月10日

第3版発行 ©TKC

著 者 株式会社 TKC

発行者 飯塚 真規

発行所 株式会社 TKC

〒162-8585 東京都新宿区揚場町2-1 軽子坂MNビル 5F

不許複製

※記載されている会社名・製品名・システム名などは、各社の商標、または登録商標です。